

わたしの羊はわたしの声を聞き分ける

ヨハネによる福音書 10:27-30

(そのとき、イエスは言われた。) わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。わたしと父とは一つである。

説教

ヨハネ福音書は善と悪を語ります。「光と闇」「滅びと永遠の命」「良いひつじと悪いひつじ」などと「よい、わるい」の対比で福音を語ります。きょうの福音にある「わたしの羊」というたとえば「わたしの羊でない羊」に対応します。「わたしの羊」はイエスに従うもの、つまりキリスト信者をたどっています。

わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。

ヨハネ 10:27

1. イエスの声を聞き分ける羊
2. イエスは「わたしの羊」を知っている

これが「わたしの羊」の特徴です。そうかわたしたちクリスチャンはイエスのひつじちゃんか、と思うとちょっといい気分になります。

「わたしの声を聞き分けない」羊もいる、そんな羊のことを「わたしは知らない」とイエスは突き放しています。その一方で「わたしの羊」についてイエスはこう言います。

わたしは彼らに永遠の命を与える。 ヨハネ 10:28a

「永遠の命」とはキリスト教特有の言い回しです。キリスト教の中には反対する宗派もありますが「たましい」と読み替えてもそれほど的外れではありません。

ません。

わたしは彼らに永遠の命を与える。⇒わたしは「わたしの羊たち」に
たましいを与える。

たましいとは、人の内側にあって目には見えず、滅びることのないもので、
人が死ぬときにはこの目には見えない「たましい」が離れ、生き続ける、と
いう宗教的な考え方があります。これとは反対に人の中には見えないものな
んてあるわけない、人はモノといっしょで死んでしまったらなにも残らない、
このように宗教的な事柄を否定する考え方もあります。

イエスが与える「永遠の命」はイエス・キリスト流の「たましい」です。イ
エスを知らない人のたましいとイエスを知る人、またイエスが知っている人
のたましいはここが違います。この違いが「永遠の命」と呼ばれています。

「イエスを知る人、またイエスが知っている人」とは十字架の上で死んだイ
エスが三日目に復活したということを知る人のことです。この復活の奇跡
を信じる人にイエスはたましい、永遠の命を授けてくださいます。一人ひと
りがイエスの声を聞き分け、イエス・キリストを信じる人として確信を深め
ることができますように。
